

厚生労働科学研究費補助金
(政策科学総合研究事業(統計情報総合研究事業))
分担研究報告書

ICD-11 の適用を通じて我が国の死因・疾病統計の向上を目指すための研究
「ICD-11 のわが国への適用に向けた考察」

小川 俊夫¹ 今井 健² 東 尚弘² 今村 知明³

1 摂南大学 2 東京大学大学院医学系研究科 3 奈良県立医科大学

研究要旨

本研究は、ICD-11 の円滑な国内導入と活用に向けて、ICD-11 国内導入に伴う課題や影響を検証し、ICD-11 に対応した統計基準の検討を行うとともに、厚生労働省や各学会、WHO などの意見集約と調整、意見発信を行うための基礎資料を取りまとめ、ICD-11 のわが国への円滑な適用に資することを目的とする。研究初年度の本年は、WHO 製表分類 2023 と基本分類表 2013 の死因・疾病分類の組み合わせコードを作成し、新たなコードに対応した死亡者数と推計患者数を推計した。また、疾病分類表及び死因分類表の原票を用いて新たな分類の妥当性・実用可能性についても考察した。さらに、標準病名マスターと ICD-11 用語和訳作業結果を統合した ICD-11 対応の統合標準病名集の開発に向けた基礎資料を作成したほか、WHO-FIC 年次会議に参加して WHO における ICD 改訂動向や諸外国の ICD-11 国内適用に関する情報を収集した。

本年度研究により、WHO 製表分類 2023 と基本分類表 2013 を組み合わせて新たな基本分類表・死因コード、疾病コードを試作し、死亡数、推計患者数を新たなコードで集計することが可能であることを確認した。今後、新分類の作成と並行し、それに基づく公的統計への影響分析をマクロアプローチ・ミクロアプローチの両面から進めていく予定である。

A. 研究目的

本研究は、ICD-11 の円滑な国内導入と活用に向けて、ICD-11 国内導入に伴う課題や影響を検証し、ICD-11 に対応した統計基準の検討を行うとともに、厚生労働省や各学会、WHO などの意見集約と調整、意見発信を行うための基礎資料を取りまとめ、ICD-11 のわが国への円滑な適用に資することも目的である。具体的には、

(1) ICD-11 国内導入のわが国の公的統

計に与える影響を考察し、ICD-11 の円滑な国内導入に資する知見を集積すること、
(2) ICD-11 のわが国における活用について考察し、課題を整理すること、さらに
(3) WHO-FIC 年次会議に参加して WHO における ICD 改訂動向や諸外国の ICD-11 国内適用に関する情報を収集し、本研究で得られた知見を国内外に意見発信することである。

本研究により、WHO 分類とわが国の罹

患統計・死亡統計との整合性について多角的・包括的に分析することで、ICD-11 導入によるわが国の公的統計への影響の検証や課題抽出を行うことが可能である。また、ICD-11 国内導入に必須となる新たな ICD-11 対応統合標準病名集の構築に関する知見が集積される。さらに、本研究で得られた知見の国内外への情報発信を行うことで、疾病分類の普及と実用化における日本のプレゼンス向上に貢献できる。

B. 研究方法

(1) 公的統計で用いられている現行分類と WHO 分類の構造を比較分析し、わが国の公的統計の整合性・継続性を維持しつつ WHO 分類にも適用可能な新たな分類の作成を試みた。具体的には、WHO 製表分類とわが国の基本分類表の組み合わせコードを、死亡統計、疾病統計それぞれで作成した。次に、2022 年度の人口動態統計の死亡者数と、2020 年度の患者調査における疾病別推計患者数を用いて、新たなコードに対応した死亡者数と推計患者数を推計した。推計にあたり、ICD-10/11 mapping tables、基本分類表、死因簡単分類表、死亡数表、推計患者数表を、ICD-10 コード(死因基本分類)をキー変数として名寄せした。なお、ICD-10/11 mapping tables に記載された項目によっては、単一の ICD-10 コードに複数の ICD-11 MMS コードが記載されているため、ICD-10/11 mapping tables とその他のテーブルは、1 対多対応で付加した。1 対多対応で付加した項目については、現行の ICD-10 コードで集計された死亡者数及び推計患者数データを、それぞれの ICD-11 MMS コードに均等配分されると仮定し分配した。

また、疾病分類表及び死因分類表の原票

を用いて新たな分類の妥当性・実用可能性についても考察した。

(2) 標準病名マスターと ICD-11 用語和訳作業結果を統合した ICD-11 対応の統合標準病名集の開発に向けた基礎資料を作成した。

(3) WHO-FIC 年次会議に参加して情報収集を行なった。

(倫理面への配慮)

本研究は既存分類の分析と国内外の学会などでの情報収集と意見発出が研究主体であり、倫理的配慮は必要としない。

C. 研究結果

(1) 公的統計で用いられている現行分類と WHO 分類の比較分析

わが国の死因統計及び罹患統計には、2013 年に公表された基本分類表(以下、基本分類表 2013)が用いられているが、ICD-11 の導入と WHO が公表した新たな WHO 製表分類(以下、WHO 製表分類 2023)に対応した、新たな基本分類表の作成が求められている。

新たな基本分類表に求められる機能としては、WHO 製表分類 2023 に対応するとともに、公的統計の継続性の維持のため、現行の基本分類表 2013 の両方に対応する必要がある。この条件は、WHO 製表分類 2023 と基本分類表 2013 に記載されたコードを組み合わせることで実現できるため、死因・疾病分類とも、WHO 製表分類 2023 と基本分類表 2013 の組み合わせコードを WHO から公表されている mapping table を用いて作成した。具体的には、以下の手順で実施した。

2024 年 1 月 4 日に WHO より公表された ICD-10 と ICD-11MMS の mapping

tables の現時点での最新版である「10To11MapToMultipleCategories.xlsx」の ICD-11MMS コードと、「MortalityTabulationList V2023.xlsx」「MorbiditiesTabulationList V2023.xlsx」の WHO 製表分類に記載された ICD-11MMS コードを用いて、3 つのテーブルを名寄せし、統合テーブルを作成した。次に、基本分類表 2013 に記載された ICD-10 コードと統合テーブルの mapping table に記載された ICD-10 コードを用いて名寄せした。基本分類表 2013 の名寄せにあたり、基本分類表 2013 の ICD-10 コードに付記されたダガー及びアスタリスクを除外して実施した。

作成した統合テーブルにおいて、WHO 製表分類 2023 (死因、罹患の両方) 及び基本分類表 2013 の死因分類及び疾病小分類の各コードの組み合わせを作成した。

なお、組み合わせに用いた WHO 製表分類 2023 の死因分類は 158 項目、基本分類表 2013 の死因分類は 133 項目と、死因分類では基本分類表 2013 の項目数がやや少なく、逆に疾病分類では、WHO 製表分類 2023 で 348 項目、基本分類表 2013・疾病小分類で 375 項目と、基本分類表 2013 の方が項目数はやや多いものの、いずれもほぼ近い項目数であった。これは数においては若干の差にも見えるが、実際は章ごとに分類項目粒度に大きな差があることが判明した。例えば、第 1 章(感染症)は ICD-10、ICD-11 で内容に大きな差はないが、WHO 製表分類 2023 では 36 項目、国内の死亡分類では 12 項目と項目数が大きく異なっている。

そこで、分類項目粒度が細かい方へ合わせた形で、互いの項目を組み合わせる新たな死因コードを試作したところ、作成した

基本分類表・死因コード案は 156 項目、疾病分類コード案は 457 項目になると推定された(別添資料 1、2 参照)。

次に、現行の死亡者数と推計患者数を用いて、新たなコードごとの集計を試みた。具体的には、死因分類については、2022 年度の人口動態統計の死亡者数を、疾病分類については、2020 年度の患者調査における疾病別推計患者数を用いて、新たなコードに対応した死亡者数と推計患者数を推計した(別添資料 1、2 参照)。

国内で新しい死因分類を導入する際には上記の単純な組み合わせによる死因分類からさらに集約していく必要がある。本年度の検討ではその際の原則として、以下の方針が妥当と考えられた。

- A) WHO 製表分類 2023 の方が粒度が細かい分類については、医学知識の発展を盛り込む形で進化した ICD-11 の考え方を尊重し、WHO 側の分類を採用する
- B) 国内の現行の死亡分類の方が粒度が細かい分類については、過去国内での臨床上の集計の重要性を鑑みて採用されていたものであることを考慮し、国内側を採用する
- C) 多対多対応、あるいは ICD-10 から ICD-11 への移行に伴い章にまたがる複雑な変更が生じている分類項目については統計上の継続性と臨床上の重要性を鑑み個別に検討する。

現在この原則に従い、WHO 側、国内側の分類粒度のバランスを考慮した折衷案の策定を行っているところである。また、罹患統計についても上記と同じ考え方で進めている。

また、これらの新しい死亡/罹患統計用分類案の導入によってもたらされる公的統計への影響調査も重要な課題である。

死亡統計及び疾病統計については、新分類案に応じて実際の死亡数、推計患者数がどのように変化するか推計する必要があるが、これには2通りのアプローチがある。

ア) マクロアプローチ

ICD-10 と ICD-11 のカテゴリ間のマッピングテーブルを用いて ICD-11 コード(MMS)をベースとした際の死亡数、推計患者数を推計する方法である。分類カテゴリが「1対多」「多対多」の対応になっている場合、特定の ICD-10 コードに対応する死亡数、推計患者数を、対応する複数の ICD-11 コードに均等配分して推定することを目的としている。現在新分類案の策定と共に、この方式による集計を進めているところである。

イ) ミクロアプローチ

上述の方法では、死亡統計の場合、1つの ICD-10 コードに該当する死亡数を、対応する複数の ICD-11 コードに均等配分するため、ICD-11MMS を用いた死亡統計の推計精度が少し粗くなってしまうという欠点がある。そこで ICD カテゴリではなく、病名の粒度で ICD-10, ICD-11 のカテゴリを同定し、より精緻な分析をすることを目的とした方法である。さらに、昨年度までの研究(R2-4 厚労科研 政策科学総合(政策科学推進)「社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究」の今井分担研究)において、既に WHO が作成した ICD-10 と ICD-11 のマッピングテーブルには不備

があることが判明しており、より正確な推計のためには病名単位で行うことが適切である。これを行うためには予め病名に対し ICD-11 コードを付与しておく必要があるが、この詳細については「研究結果(2)」にて述べる。

本年度、厚生労働省国際分類情報管理室と連携し、死亡票並びに病名単位での罹患統計情報については既に入手を行った。また(2)の進捗と合わせてこの方式での分析を並行して行っているところである。

(2) 標準病名マスターと ICD-11 用語和訳作業結果を統合した ICD-11 対応の統合標準病名集の開発

ICD-11 では(1)分類体系の構造自体の変化(2)個々の分類概念の詳細化(3)単なる分類体系の提供から用語集の提供への変化(4)Post-Coordination を用いた任意粒度での概念のコーディング、と言ったこれまでにない特徴があり、国内でこれまで用いられてきたコーディングスキームとは大きく異なっている。国内の電子カルテ環境では厚生労働省標準ともなっている ICD-10 対応電子カルテ用標準病名マスター(以下、標準病名マスター)が広く導入されており、病名の記録と ICD-10 コードへの対応づけが行われているだけでなく、その ICD-10 コードは DPC など診療報酬請求にも広く用いられている。一方、ICD はこれまで単なる疾患分類のためのカテゴリ体系を提供するものであったが、ICD-11 からは Foundation Component 中に約13万語の用語セットが含まれ、大きく拡充されると共に用語集としての性質を帯びてきた。従って、ICD-11 の日本語版を作成し国内導入する際には、これまで国内で標準的

に用いられてきた標準病名マスターとのダブルスタンダードを避け、円滑な移行を促すため整合性をとった上で適切に統合する必要がある。

そこで昨年度までの研究(R2-4 厚労科 政策科学総合(政策科学推進)「社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究」)から継続し、標準病名マスターに含まれる病名について ICD-11 コードとの対応づけ作業を行った。これは(A) ICD-11 Foundation 用語の訳語と、国内標準病名マスターとを統合し ICD-11 コード対応の病名マスターとして拡充する際、並びに(B)国内の公的統計への影響を測る際の「マイクロアプローチ」(前述)を行う際、の2つの目的に対して必須である。

本年度は WHO による ICD-11 の定期的な変更に合わせて、昨年度までの研究で修正検討が十分に行えていなかった章を対象に、国内標準病名からの ICD-11 コーディング作業を行った。本年度は、特に数の多い ICD-10 19 章(損傷中毒: 10489 語)並びに 2 章(新生物: 7292 語)の標準病名を対象に最新の ICD-11 に追従するべく見直し作業を行い、それぞれ 3,651 語、1,568 語についてコード修正を行った。(本報告書文末<別添資料3>参照)。特に重要である第2章については、本研究分担者に加え研究協力者(安永瑛一・東大病院病理部助教)の協力を仰ぎ、検討を行った。

特に ICD-10 第2章ではこれまで 61 件の新生物関連標準病名について問題が見つかる。例えば、“充実性偽乳頭状腫瘍”(ICD10: C259, 交換コード: DVP4)は、ICD-11 Foundation では、Solid-pseudopapillary neoplasms of pancreas としエントリが存在する。

一方、MMS では“膵臓の腺腫”(2C10.0)の索引語とされているが、この疾患は腺腫とは言えず 2C10.Y (Other specified malignant neoplasms of pancreas)の方が適切と考えられ、WHO の索引語の誤りと判断された。実際ががん領域で良く用いられる WHO Classification of Tumours Online(通称 Blue Book)でも“2C10.Y & XH3FD4”と 2C10.Y が採用されている。

しかし、Blue Book の post-coordination では病理所見の拡張コード XH3FD4 が Solid pseudopapillary tumor of ovary を示しており誤りである。正しくは、Solid-pseudopapillary neoplasms of pancreas (XH3AE9)を用いて、2C10.Y & XH3AE9とするのが正しいと考えられる。つまり、WHO MMS の索引語も、Blue Book の post-coordination のどちらにもエラーが存在している。同様に注意深く検討を要するコーディング、あるいは現在では古い病名とされもはや ICD-11 の体系ではコーディング不可能な病名など多数の問題が見つかる。このように病名単位で正しい ICD11 コード付けを行うことは国内での適用において非常に重要である。

現在、これまでの標準病名の ICD-11 対応付け結果、並びに本年度研究班にて策定された基本分類表の「折衷案」をベースとし、並行して「マイクロアプローチ」による公的統計への影響分析を行っているところである。

(3) WHO における ICD 改訂動向や諸外国の ICD-11 国内適用に関する情報収集

2023年10月16日(月)から20(金)に開催された WHO-FIC ネットワーク年次会議(ドイツ・ボンにて開催)にオンライン参加した。

2023年10月16日(月)に開催されたWHO-FIC カウンシルでは、ICD-11の各国での導入状況について説明があり、開発途上国を含め各国でICD-11導入に向けた準備が進められていると報告された。また、ICD-11導入に向けた教育ツールの開発やICD-11メンテナンスツールの開発なども進められており、ICFやICHIとの統合に向けた作業も進められているとの報告があった。さらに、MedDRA、Orphanet、SNOMEDやMONDOなど外部のデータベースとの統合に向けた準備や話し合いが進められているとの報告があった。また、各委員会の活動についても報告があった。

また、本研究分担者今井はWHO-FIC ITC (Information Technology Committee) Secretariatを務めると共にICD11とICD10あるいは他の用語リソースとのマッピングを検討するMapping Task Forceメンバーにも参画しており、これまでの厚労科研におけるICD11研究班における研究成果の発信を行った。

<別添資料4>に最も直近にて開催されたITC Mid-Year Meeting (2024年5月7日)における議事録、並びに当該会議にて日本から発表した資料を<別添資料5>、<別添資料6>に記す。(日本からの発信内容は議事録中で黄色で示されている)

ICD-10からICD-11への円滑な移行は各国の最重要課題であるが、WHOによるICD10・ICD11マッピングテーブルには不備があることが指摘されている。当該会議では日本における「標準病名からICD-11へのマッピング」の結果から、WHOマッピングテーブルとの(1)完全一致: 74%, (2)部分一致(STEMのみ): 15%, (3)不一致10%であることを報告し、実例の紹介を行った。各国からは貴重な報告であると評

価されると共に、マッピングテーブルの各国による継続的な評価と修正の必要性、FDC及びカウンシルでの継続議論の必要性が再認識された。

また、Mapping Task ForceではICD-11とSNOMED-CTなど他の用語集とのマッピングについても議論が進められているが、日本からは別添資料6の通り、International Patient Summary向けにフリー公開されたSNOMED-CTのサブセットであるSNOMED-CT GPS/IPSを対象に、ICD-11とのマッピングを試みた事例を発表した。表記の揺れを修正してもGPSの中でICD-11にマッピングできた事例は18%程度であり、特にdisorderカテゴリであったとしても38%程度の一致に留まっていた。これは、SNOMED-CT側が“用語”というよりも寧ろ“フレーズ”にて表現されている臨床概念が多いためであり、両者のマッピングのためには、単なる文字列一致ではなくICD-11を用いた“Post-Coordination”が必要である。

ICD-11の可用性向上のため、他の代表的な用語リソースとのマッピングは重要視されている。特にSNOMED-CTを導入していない日本にとって、ICD-11とのマッピングがなされることの効果は非常に大きい。ICD-11コードを適切に付与することにより同時にSNOMED-CTコードにも変換できるためである。今回の発信により、もはやこれは“マッピング”ではなくpost-coordinationを用いた“コーディング”タスクであることが確認され、これを促進するためのコーディング支援ツールのさらなる発展の重要性が認識された。

D. 考察

WHO製表分類2023と基本分類表2013

を組み合わせる新たな基本分類表・死因コード、疾病コードを試作し、死亡数、推計患者数を新たなコードで集計することが可能であることを確認した。一方で、WHO 製表分類は ICD-11 MMS 準拠のコードであり、基本分類表は ICD-10 コード準拠であるため、そのための粒度や分類の違いがあることから、これらを組み合わせたコードでは、項目によって粒度が異なっていたり、分類の考え方が異なっていることが考えられ、それにより新たな分類として適切な構造となっているかどうか、検討が必要である。例えば感染症については、WHO 製表分類 2023の方が基本分類表 2013よりも細かく、一方で循環器系の疾患では、基本分類表 2013の方が WHO 製表分類 2023よりも細かい分類となっている。このような、わが国の疾病の特徴を加味した章ごとの粒度の違いも組み合わせによって影響があったと考えられる。

今後 ICD-11 に準拠し、さらに公的統計の継続性を維持するために新たな基本分類表の構築が求められており、本研究で試作したように、WHO 製表分類 2023 と基本分類表 2013 を組み合わせる考察することが必須と考えられる。その際に、WHO 製表分類 2023 と基本分類表 2013 は項目によって粒度が異なっており、それぞれの特徴を維持しつつ、本研究で試作したコードを統合した新たな分類の作成が必要と考えられる。今後、新分類の作成と並行し、それに基づく公的統計への影響分析をマクロアプローチ・ミクロアプローチの両面から進めていく予定である。

また ICD-11 の可用性を高め、標準病名マスターとの円滑な統合や、実臨床データに対する患者病態の詳細なコーディング、他のリソースとのマッピングを進めるため

にはコーディング支援ツールが重要となる。WHO では Code Fusion というコーディング支援ツールを開発中であるが、本研究班のリソースを提供することで日本語版の搭載、さらには国内でのコーディング支援ツールの開発へ発展させることが可能と考えられ、今後の課題である。

E. 結論

本研究では、死亡統計と疾病統計に着目し、これらの公的統計で用いられている現行分類と WHO 分類の構造を比較分析し、わが国の公的統計の整合性・継続性を維持しつつ WHO 分類にも適用可能な新たな分類の作成を試み、さらに国内統計への影響を分析するため、死亡者数、推計患者数を新たな分類において推計を試み、現行の国内統計と新たな分類との比較が可能であることを確認した。なお、新たなコードを用いた死亡者数、推計患者数の推計には、マクロアプローチとミクロアプローチが想定され、本年度はマクロアプローチによる推計を行なったほか、ミクロアプローチによる推計のための各種準備を実施した。今後、この両アプローチについて両面から分析を実施し、わが国の公的統計における ICD-11MMS 導入の影響について、より詳細に分析する予定である。

G. 研究発表

1. 論文発表

2. 学会発表

今井 健, 国際疾病分類 ICD11 について, NeXEHRs 第 12 回セミナー招待講演, オンライン, 2023 年 12 月 5 日.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

<別添資料1> 新たな基本分類表・死因コード案と推計死亡者数(2022年度)

死因新分類コード	死因新分類項目名	死亡2022		死因新分類コード	死因新分類項目名	死亡2022	
		男性	女性			男性	女性
M2024.01101	コレラ	0	0	M2024.02201	くも膜下出血	4,317	7,151
M2024.01102	その他の腸内細菌感染症	153	165	M2024.02202	脳門出血	18,473	15,010
M2024.01103	細菌性胃中腸炎	100	96	M2024.02203	脳梗塞	28,824	30,539
M2024.01104	梅毒	8	3	M2024.02204	その他の脳血管疾患	3,446	3,004
M2024.01105	その他の不特定の感染性胃腸炎および大腸炎	685	839	M2024.02205	眼及び付属器の疾患	5	4
M2024.01201	呼吸器系の結核	881	542	M2024.10000	耳及び乳突突起の疾患	11	11
M2024.01202	他の臓器および糸の結核、後遺症および不特定の結核	371	379	M2024.11101	高血圧性心臓病	2,324	3,287
M2024.01300	物血症	5,746	5,588	M2024.11102	高血圧性腎疾患	356	459
M2024.01401	B型肝炎	212	141	M2024.11103	その他の高血圧性疾患	2,365	2,870
M2024.01402	C型肝炎	535	732	M2024.11201	増殖性心臓病	846	1,337
M2024.01403	その他のウイルス性肝炎	95	94	M2024.11202	急性心筋梗塞	19,081	12,945
M2024.01500	ヒト免疫不全ウイルス(HIV)病	51	2	M2024.11203	その他の虚血性心疾患	25,147	16,012
M2024.01601	ペスト	0	0	M2024.11204	肺血栓塞栓症	1	1
M2024.01602	百日咳	1	0	M2024.11205	慢性非リウマチ性心内膜疾患	4,034	8,271
M2024.01603	破傷風	5	7	M2024.11206	心筋症	1,890	1,634
M2024.01604	シラリア	0	0	M2024.11207	不整脈及び伝導障害	10,555	12,456
M2024.01605	髄膜炎	88	72	M2024.11208	心不全	40,121	58,550
M2024.01606	急性脳炎	30	36	M2024.11209	その他の心疾患	3,851	3,152
M2024.01607	狂犬病	0	0	M2024.11300	大動脈瘤及び瘤腫	10,068	9,899
M2024.01608	炭疽	0	0	M2024.11400	その他の循環器系の疾患	9,989	4,480
M2024.01609	その他の感染性寄生虫病	0	0	M2024.12100	慢性閉塞性肺疾患	14,019	2,657
M2024.01810	その他の節足動物咬傷ウイルス性熱およびウイルス性出血熱	11	11	M2024.12200	その他の慢性下部呼吸器疾患	3	3
M2024.01811	エボラ出血熱	0	0	M2024.12300	喘息	377	627
M2024.01812	インフルエンザ	15	9	M2024.12400	肺炎	42,823	31,132
M2024.01813	麻疹	0	0	M2024.12500	急性気管炎	92	117
M2024.01814	マラリア	0	0	M2024.12600	その他の急性下気道感染症	2,463	905
M2024.01815	アフリカリバリオネマ症	0	0	M2024.12700	外部要因による肺疾患	34,606	22,846
M2024.01816	シャーガス病	0	0	M2024.12800	その他の呼吸器系の疾患	20,787	13,931
M2024.01817	リーシュマニア症	0	0	M2024.13100	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	1,466	1,061
M2024.01818	狂犬病	0	0	M2024.13200	アルコール性肝疾患	5,437	859
M2024.01819	重症急性呼吸器症候群[SARS]	0	0	M2024.13202	肝臓病(アルコール性を除く)	4,739	3,905
M2024.01820	コロナウイルス感染症2019	25,139	22,522	M2024.13208	その他の肝疾患	2,346	1,750
M2024.01899	その他の感染性寄生虫病	3,447	4,052	M2024.13300	胆嚢または胆道の疾患	3,389	4,454
M2024.02101	肺炎または他の呼吸器系の悪性新生物	1,741	1,378	M2024.13400	腫瘍の疾患	960	685
M2024.02102	骨髄性悪性新生物	4,612	2,747	M2024.13500	炎症性腸疾患	181	103
M2024.02103	リンパ系悪性新生物	7,993	6,779	M2024.13600	ヘルニア及び脱腸	3,937	4,382
M2024.02104	造血組織およびリンパ組織のその他の悪性新生物	3,867	3,079	M2024.13700	その他の消化器系の疾患	41,554	44,226
M2024.02105	唇、口腔または咽喉頭の悪性新生物	5,960	2,469	M2024.14000	皮膚及び皮下組織の疾患	1,264	1,750
M2024.02106	食道の悪性新生物	8,790	21,238	M2024.15000	筋骨格系及び結合組織の疾患	2,364	3,266
M2024.02107	胃の悪性新生物	26,455	14,256	M2024.16100	糸状体疾患及び腎臓細菌性腎臓炎	675	657
M2024.02108	膵臓の悪性新生物	17,975	18,668	M2024.16200	急性腎不全	1,522	1,477
M2024.02109	膵臓または膵臓移行部及び直腸の悪性新生物	9,884	5,888	M2024.16300	慢性腎臓病	12,198	10,643
M2024.02110	肝臓の悪性新生物	19,606	19,890	M2024.16400	原因不明の腎不全	2,468	2,431
M2024.02111	胆及び胆汁管の悪性新生物	15,717	7,908	M2024.16500	その他の腎臓病	6,394	11,185
M2024.02112	膵臓及びその他の胆道の悪性新生物	9,476	8,289	M2024.17000	指関節の疾患	0	0
M2024.02113	喉頭の悪性新生物	723	75	M2024.18100	尿管に由来する疾患	0	5
M2024.02114	気管、気管支及び肺の悪性新生物	53,727	22,908	M2024.18200	妊娠、出産、または産褥期の浮腫、蛋白尿、または高血圧性症	0	3
M2024.02115	皮膚の悪性新生物	893	813	M2024.18300	産科異常出血	0	4
M2024.02116	乳房の悪性新生物	1,09	15,812	M2024.18400	閉経性不妊	0	0
M2024.02117	子宮頸部の悪性新生物	0	2,999	M2024.18500	産褥期の感染症	0	0
M2024.02118	子宮の他の部分の悪性新生物	0	4,983	M2024.18600	妊娠、出産、産褥に対する母体の感染症	0	0
M2024.02119	卵巣の悪性新生物	0	5,182	M2024.18700	妊娠、出産、産褥における他の部位での特定の母体疾患	0	5
M2024.02120	前立腺の悪性新生物	13,438	0	M2024.18800	妊娠、出産、産褥のその他の合併症	0	19
M2024.02121	腎臓および腎臓の悪性新生物	4,656	2,484	M2024.19100	妊婦期間及び産褥期に発生する合併症	23	19
M2024.02122	膀胱の悪性新生物	6,388	3,210	M2024.19200	産科外傷	5	0
M2024.02199	その他の悪性新生物	11,885	11,164	M2024.19300	周産期に特異的な感染症	13	4
M2024.02201	中枢神経系の新生物<腫瘍>	1,277	1,371	M2024.19400	周産期または新生児期に特有の呼吸器疾患	60	69
M2024.02202	中枢神経系を除く新生物<腫瘍>	5,957	4,906	M2024.19500	周産期または新生児期に発生する心臓病	45	57
M2024.02300	様々な貧血症	31	61	M2024.19800	胎児及び新生児の出血性疾患及び血球障害	18	15
M2024.02300	その他の貧血症	759	1,123	M2024.19700	その他の周産期・新生児病態	37	35
M2024.02300	血液または造血器官のその他の疾患	899	983	M2024.20100	a. 薬の先天奇形	284	272
M2024.04000	免疫系の疾患	1,734	2,508	M2024.20102	その他の循環器系の先天奇形	114	184
M2024.05100	糖尿病	8,880	6,824	M2024.20200	染色体異常、他に分類されないもの	207	235
M2024.05200	代謝障害	3574	3,824	M2024.20800	神経系の先天奇形	34	37
M2024.05300	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	1,869	1,827	M2024.20400	消化器系の先天奇形	51	35
M2024.08100	統合失調症またはその他の原発性精神障害	508	674	M2024.20600	その他の先天奇形及び変形	2,500	2,420
M2024.08200	アルコールの使用による障害	359	37	M2024.21100	非難	48,964	129,565
M2024.08300	オピオイドの使用による障害	0	0	M2024.21200	乳がん悪性腫瘍候群	30	17
M2024.08400	他の物質の使用による障害	5	1	M2024.21300	その他の症状、徴候及び異常臨床所見、異常検査所見で他に	34,646	23,869
M2024.08500	血圧異常、神経伝導障害、または神経障害	9,088	15,271	M2024.22100	原因不明の腫瘍に付随する臨床経過不明な事件	2,363	1,045
M2024.08600	その他の神経障害、行動障害、または神経発達障害	430	658	M2024.22200	その他の構造的な輸送障害等	15,818	14,174
M2024.08700	睡眠覚醒障害	74	60	M2024.22300	その他の原因不明の理由	2,247	1,801
M2024.08101	パーキンソン病	2,256	2,209	M2024.22400	原因不明な不定なイベント	1	1
M2024.08102	アルツハイマー病	8,693	16,187	M2024.22500	武力攻撃	0	0
M2024.08103	多発性硬化症	0	0	M2024.22600	法的介入	1	0
M2024.08104	白質変性症	49	55	M2024.22700	罹患者と死亡者のその他の外的原因	2,567	1,738
M2024.08105	髄膜炎	2,332	2,253	M2024.22800	その他の外因	21,209	10,528
M2024.08106	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	6,485	6,713		合計	798,420	769,627
M2024.08107	その他の神経系の疾患	11,36	1,197				

<別添資料2> 新たな基本分類表・疾病コード案と推計患者数(2020年度)

疾病新分類コード	疾病新分類項目名	推計患者数	疾病新分類コード	疾病新分類項目名	推計患者数
Mt2024c01001	コレラ	0.0	Mt2024c02010	骨及び関節軟骨の悪性新生物	0.7
Mt2024c01002	赤痢菌による腸感染症	0.0	Mt2024c02011	中皮及び軟骨組織の悪性新生物	2.4
Mt2024c01003	大腸菌による腸感染症	0.0	Mt2024c02012	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物	7.6
Mt2024c01004	クロストリディオイデス・ディフィシルによる腸感染症	0.2	Mt2024c02013	食道の悪性新生物	7.6
Mt2024c01005	腸アブスルバチア	0.0	Mt2024c02014	胃の悪性新生物	26.4
Mt2024c01006	細菌性食中毒	0.2	Mt2024c02015	結腸の悪性新生物	29.9
Mt2024c01007	ウイルス性腸感染症	1.3	Mt2024c02016	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	14.7
Mt2024c01008	アメーバ症	0.0	Mt2024c02017	肛門及び肛門管の悪性新生物	0.4
Mt2024c01009	その他の消化器感染症	21.9	Mt2024c02018	膣の悪性新生物	11.3
Mt2024c01010	初期梅毒	0.0	Mt2024c02019	肝及び肝内胆管の悪性新生物	9.0
Mt2024c01011	先天梅毒	0.0	Mt2024c02020	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	5.9
Mt2024c01012	その他の梅毒	0.3	Mt2024c02021	その他の消化器の悪性新生物	0.6
Mt2024c01013	淋菌感染症	0.2	Mt2024c02022	喉頭の悪性新生物	1.7
Mt2024c01014	クラミジアによる性感染症	1.4	Mt2024c02023	気管、気管支及び肺の悪性新生物	34.5
Mt2024c01015	その他の性伝播感染症	1.8	Mt2024c02024	その他の呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	1.0
Mt2024c01016	呼吸器系の結核	2.5	Mt2024c02025	乳房の悪性新生物	40.5
Mt2024c01017	他の臓器およびシステムの結核	0.4	Mt2024c02026	卵巣の悪性新生物	4.7
Mt2024c01018	ヘルペス	0.4	Mt2024c02027	皮膚の悪性色素腫	0.6
Mt2024c01019	ペスト	0.0	Mt2024c02028	その他の皮膚の悪性新生物	2.2
Mt2024c01020	ブルセラ症	0.0	Mt2024c02029	子宮頸(部)の悪性新生物	4.7
Mt2024c01021	百日咳	0.0	Mt2024c02030	子宮体(部)の悪性新生物	4.6
Mt2024c01022	新生児破傷風	0.0	Mt2024c02031	子宮の類似不明の悪性新生物	0.5
Mt2024c01023	その他の破傷風	0.0	Mt2024c02032	陰嚢の悪性新生物	0.0
Mt2024c01024	ジフテリア	0.0	Mt2024c02033	女性生殖器のその他の悪性新生物	0.4
Mt2024c01025	髄膜炎菌性疾患	0.0	Mt2024c02034	前立腺の悪性新生物	25.5
Mt2024c01026	敗血症	3.8	Mt2024c02035	精巣の悪性新生物	0.4
Mt2024c01027	その他の細菌性疾患	33.4	Mt2024c02036	男性生殖器のその他の悪性新生物	0.1
Mt2024c01028	再発熱	0.0	Mt2024c02037	膀胱の悪性新生物	11.6
Mt2024c01029	トコソマ	0.0	Mt2024c02038	腎及び腎盂の悪性新生物	5.3
Mt2024c01030	猩紅熱	0.0	Mt2024c02039	その他の泌尿器の悪性新生物	1.2
Mt2024c01031	結核を伴う免疫不全ウイルス疾患	0.0	Mt2024c02040	眼及び付属器の悪性新生物	0.0
Mt2024c01032	マラリアに関連する免疫不全ウイルス疾患	0.0	Mt2024c02041	甲状腺の悪性新生物	3.6
Mt2024c01033	結核やマラリアの記載がない免疫不全ウイルス疾患	1.9	Mt2024c02042	その他の悪性新生物	10.0
Mt2024c01034	急性ポリオ	0.1	Mt2024c02043	子宮頸(部)の上皮内癌	0.4
Mt2024c01035	狂犬病	0.0	Mt2024c02044	皮膚の良性新生物	4.1
Mt2024c01036	中枢神経系のその他のウイルス感染症	0.5	Mt2024c02045	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	5.2
Mt2024c01037	黄熱病	0.0	Mt2024c02046	乳房の良性新生物	0.8
Mt2024c01038	ジカウイルス感染症	0.0	Mt2024c02047	子宮平滑筋腫	12.4
Mt2024c01039	重症急性呼吸器症候群	0.0	Mt2024c02048	卵巣の良性新生物	0.2
Mt2024c01040	その他の節足動物媒介ウイルス性熱およびウイルス性出血熱	0.0	Mt2024c02049	腎臓の良性新生物	3.0
Mt2024c01041	おたふく風邪	0.1	Mt2024c02050	その他の上皮内新生物	0.0
Mt2024c01042	インフルエンザ	0.5	Mt2024c02051	皮膚の良性新生物	0.9
Mt2024c01043	急性A型肝炎	0.0	Mt2024c02052	その他の新生物	43.8
Mt2024c01044	ウイルス性B型肝炎	4.3	Mt2024c03001	鉄欠乏性貧血	9.7
Mt2024c01045	ウイルス性C型肝炎	5.1	Mt2024c03002	その他の貧血	4.9
Mt2024c01046	その他のウイルス性肝炎	0.4	Mt2024c03003	壊疽性血管内源血管炎候群	0.9
Mt2024c01047	サル痘 (mpox)	0.0	Mt2024c03004	その他の循環系疾患、紫斑病、その他の出血性疾患または関連疾患	3.3
Mt2024c01048	凍瘡	0.4	Mt2024c04001	アトピー性皮膚炎	0.6
Mt2024c01049	帯状疱疹	12.7	Mt2024c04002	その他のアレルギーまたは過敏症	4.7
Mt2024c01050	ヘルペスウイルス感染症	4.6	Mt2024c04003	関節リウマチ	0.0
Mt2024c01051	風疹	0.1	Mt2024c04004	全身性エリテマトーデス<SLE>	3.1
Mt2024c01052	麻疹	0.0	Mt2024c04005	乾燥症候群[シェーグレン症候群]	2.9
Mt2024c01053	皮膚糸状菌症	22.3	Mt2024c04006	その他の全身性結合組織障害	9.3
Mt2024c01054	カンジダ症	5.8	Mt2024c04007	移植片対宿主病(GVHD)	1.0
Mt2024c01055	その他の真菌症	2.9	Mt2024c04008	その他の非腫瘍性全身性自己免疫疾患	0.0
Mt2024c01056	マラリア	0.0	Mt2024c04009	出血性の病態並びにその他の血液及び造血器の疾患	1.0
Mt2024c01057	アフリカリバニア症	0.0	Mt2024c04010	免疫機構の障害	2.1
Mt2024c01058	シャーガス病	0.0	Mt2024c04011	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	0.9
Mt2024c01059	リーシュマニア症	0.0	Mt2024c05001	甲状腺機能低下症	10.6
Mt2024c01060	フィリア症	0.0	Mt2024c05002	甲状腺中毒症	11.6
Mt2024c01061	ドラクンキュリア症	0.0	Mt2024c05003	甲状腺炎	6.9
Mt2024c01062	鉤虫症	0.0	Mt2024c05004	その他の甲状腺障害	4.5
Mt2024c01063	エキノコックス症	0.0	Mt2024c05005	インスリン依存性糖尿病	5.9
Mt2024c01064	住血吸虫症	0.0	Mt2024c05006	インスリン非依存性糖尿病	145.9
Mt2024c01065	その他の吸虫症	0.2	Mt2024c05007	その他の糖尿病	77.5
Mt2024c01066	結核の後遺症	0.5	Mt2024c05008	インスリン依存性糖尿病の急性合併症	0.0
Mt2024c01067	ハンセン病の後遺症	0.5	Mt2024c05009	インスリン非依存性糖尿病の急性合併症	0.0
Mt2024c01068	ポリオの後遺症	0.1	Mt2024c05010	その他の糖尿病の急性合併症	0.7
Mt2024c01069	その他の感染症および寄生虫症	41.8	Mt2024c05011	栄養失調(症)	0.6
Mt2024c01070	コロナウイルス感染症2019	6.7	Mt2024c05012	ビタミン欠乏症	0.0
Mt2024c02001	脳の原発性腫瘍	1.9	Mt2024c05013	他の形態のビタミンおよびミネラル欠乏症	1.1
Mt2024c02002	中枢神経系の悪性新生物	0.0	Mt2024c05014	栄養失調または特定の特定の栄養欠乏症の後遺症	0.0
Mt2024c02003	中枢神経系のその他の新生物	6.7	Mt2024c05015	過体重または肥満(症)	0.9
Mt2024c02004	白血病	5.6	Mt2024c05016	体液量減少(症)	7.3
Mt2024c02005	その他のリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	5.5	Mt2024c05017	閉塞性虚脱	0.6
Mt2024c02006	その他の新生物	4.2	Mt2024c05018	栄養失調(症)及びビタミン欠乏症	0.5
Mt2024c02007	ホジキン病	0.5	Mt2024c05019	高脂血症	153.7
Mt2024c02008	非ホジキンリンパ腫	12.5	Mt2024c05020	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	27.3
Mt2024c02009	造血組織およびリンパ組織のその他の新生物	0.2	Mt2024c06001	知的発達障害	7.3

疾病新分類コード	疾病新分類項目名	推計患者数	疾病新分類コード	疾病新分類項目名	推計患者数
M02024e06002	自閉症スペクトラム障害	4.6	M02024e11016	心筋症	3.7
M02024e06003	注意欠陥多動性障害	7.0	M02024e11017	不整脈及び伝導障害	47.6
M02024e06004	その他の神経発達障害	18.8	M02024e11018	その他の心疾患	0.9
M02024e06005	統合失調症またはその他の原発性精神障害	192.8	M02024e11020	動脈硬化(症)	8.4
M02024e06006	双極性障害または関連障害	29.2	M02024e11021	大動脈瘤及び解離	8.5
M02024e06007	うつ病性障害	88.8	M02024e11022	レイノウ症候群	0.1
M02024e06008	不安または恐怖に関連した障害	31.4	M02024e11023	動脈の血栓症及び血栓症	1.2
M02024e06009	強迫性障害または関連した障害	3.5	M02024e11024	その他の動脈、無動脈及び毛細血管の疾患	2.2
M02024e06010	ストレスに関連する障害	13.4	M02024e11025	静脈炎、血栓(性)静脈炎並びに静脈の血栓症及び血栓症	3.0
M02024e06011	アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害	9.7	M02024e11026	下肢の静脈瘤	4.6
M02024e06012	大麻および合成カンナビノイドの使用による障害	0.0	M02024e11028	食道静脈瘤	0.0
M02024e06013	オピオイドの使用による障害	0.0	M02024e11029	低血圧(症)	2.0
M02024e06014	物質使用によるその他の障害	2.8	M02024e11030	その他の循環器系の疾患	13.2
M02024e06015	アルツハイマー病による認知症	0.0	M02024e12001	急性鼻副鼻腔炎[かぜ] <感冒>	18.9
M02024e06016	脳血管疾患による認知症	3.3	M02024e12002	急性副鼻腔炎	24.8
M02024e06017	その他の未知または不特定の原因による認知症	39.6	M02024e12003	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	44.6
M02024e06018	アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害	0.0	M02024e12004	急性気道炎及び気管炎	1.5
M02024e06019	その他の精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0.5	M02024e12005	その他の急性上気道感染症	71.7
M02024e06020	気分<感情>障害(躁うつ病を含む)	0.0	M02024e12006	アレルギー性鼻炎	104.9
M02024e06021	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	1.9	M02024e12007	慢性副鼻腔炎	24.7
M02024e06022	その他の精神及び行動の障害	38.3	M02024e12008	その他の鼻及び副鼻腔の疾患	3.8
M02024e07001	不眠障害	22.5	M02024e12009	扁桃炎及びアトピー性鼻炎	1.2
M02024e07002	その他の睡眠覚醒障害	21.3	M02024e12010	その他の上気道の疾患	4.7
M02024e08101	パーキンソン病	19.5	M02024e12011	急性又は慢性と明示されない気管支炎	1.8
M02024e08102	アルツハイマー病	92.7	M02024e12012	慢性閉塞性肺疾患	21.6
M02024e08103	多発性硬化症	1.4	M02024e12013	喘息	91.8
M02024e08104	てんかんまたは発作	20.9	M02024e12014	肺炎	27.8
M02024e08105	片頭痛	8.9	M02024e12015	じん肺(症)	0.6
M02024e08106	その他の頭痛症候群	11.1	M02024e12016	急性呼吸器感染症候群	0.0
M02024e08107	髄膜炎	0.4	M02024e12017	呼吸不全	0.0
M02024e08108	中枢神経系の炎症性疾患	1.1	M02024e12018	急性気管支炎	46.9
M02024e08109	脊髄神経根炎及び関連症候群	4.0	M02024e12019	慢性気管支炎	0.1
M02024e08110	神経、神経根及び神経束の障害	19.3	M02024e12020	慢性閉塞性肺疾患	0.3
M02024e08111	脳性麻痺及びその他の脳性障害候群	14.3	M02024e12021	気管支拡張症	1.6
M02024e08112	自律神経系の障害	4.2	M02024e12022	間質性肺疾患	9.0
M02024e08113	その他の神経系の疾患	71.8	M02024e12023	気胸	2.2
M02024e08201	くも膜下出血	11.9	M02024e12024	その他の呼吸器系の疾患	38.1
M02024e08202	脳内出血	42.4	M02024e13001	う蝕	2.7
M02024e08203	その他の脳血管疾患	0.0	M02024e13002	歯肉炎及び歯周炎	10.1
M02024e08204	一過性脳虚血発作及び関連症候群	1.7	M02024e13003	その他の歯及び歯の支持組織の障害	12.7
M02024e08205	脳梗塞	126.9	M02024e13004	口内炎及び関連疾患	3.5
M02024e08206	その他の脳血管疾患	7.9	M02024e13005	その他の口腔、咽喉頭及び嚥下の疾患	5.8
M02024e09001	麦角菌及びびん菌群	4.4	M02024e13006	その他の食道、胃及び十二指腸の疾患	26.5
M02024e09002	振盪の障害	0.0	M02024e13007	胃潰瘍	12.1
M02024e09003	膵炎	29.7	M02024e13008	十二指腸潰瘍	2.0
M02024e09004	角膜炎	11.9	M02024e13009	部位不明の消化性潰瘍	0.2
M02024e09005	白内障	70.9	M02024e13010	胃炎及び十二指腸炎	60.7
M02024e09006	網膜剥離及び裂孔	4.7	M02024e13011	その他の食道、胃及び十二指腸の疾患	4.2
M02024e09007	網膜血管閉塞症	0.0	M02024e13012	虫垂の疾患	3.3
M02024e09008	緑内障	66.0	M02024e13013	急性または亜急性肝不全	0.4
M02024e09009	斜視または眼位運動障害	2.4	M02024e13014	非アルコール性脂肪性肝疾患	4.0
M02024e09010	屈折及び調節の障害	39.2	M02024e13015	アルコール性肝疾患	30.7
M02024e09011	盲く失明>及び低視力	0.0	M02024e13016	肝硬変(アルコール性のものを除く)	6.3
M02024e09012	その他の視覚障害	4.8	M02024e13017	その他の肝疾患	6.4
M02024e09013	その他の眼及び付属器の疾患	75.4	M02024e13018	胆石症	9.5
M02024e10001	中耳炎	27.5	M02024e13019	胆のう炎	17.2
M02024e10002	耳管炎	0.0	M02024e13020	急性肝炎	2.4
M02024e10003	耳管閉塞	4.0	M02024e13021	慢性肝炎	2.7
M02024e10004	中耳炎候群	1.4	M02024e13022	その他の肝炎	0.2
M02024e10005	その他の中耳及び乳突突起の疾患	0.7	M02024e13023	胆汁性肝不全	4.7
M02024e10006	聴覚	15.6	M02024e13024	その他のヘルニア	2.6
M02024e10007	外耳炎	18.5	M02024e13025	クローン病	2.4
M02024e10008	耳垢貯蓄	9.5	M02024e13026	潰瘍性大腸炎	8.2
M02024e10009	その他の外耳疾患	0.0	M02024e13027	腸閉塞	0.0
M02024e10010	メニエール病	7.4	M02024e13028	過敏性腸症候群	17.9
M02024e10011	その他の内耳疾患	6.8	M02024e13029	痔瘻	7.7
M02024e10012	その他の耳疾患	0.4	M02024e13030	裂肛及び痔瘻	12.4
M02024e11001	本態性(原発性)高血圧(症)	594.2	M02024e13031	胆石の疾患	1.5
M02024e11002	高血圧性心疾患	3.0	M02024e13032	その他の胃腸の疾患	0.2
M02024e11003	高血圧性腎疾患	0.6	M02024e13033	その他の消化器系の疾患	11.4
M02024e11004	高血圧性心腎疾患	0.0	M02024e13034	痔核	10.8
M02024e11005	二次性高血圧症	0.9	M02024e14001	皮膚及び皮下組織の感染症	0.9
M02024e11006	急性心筋梗塞	6.6	M02024e14002	アレルギー性皮膚炎	52.7
M02024e11007	狭心症	38.3	M02024e14003	掻痒性皮膚炎	26.9
M02024e11008	冠動脈硬化症	0.7	M02024e14004	その他の皮膚炎及び湿疹	61.2
M02024e11009	陈旧性心筋梗塞	8.0	M02024e14005	乾せん及びその他の丘疹落屑性障害	10.3
M02024e11010	その他の虚血性心疾患	11.4	M02024e14006	びろくアケネ>	25.2
M02024e11011	肺塞栓症	1.4	M02024e14007	帯状疱疹	6.0
M02024e11012	うつ血性心不全	24.1	M02024e14008	じん疹	22.6
M02024e11013	その他の心不全	33.8	M02024e14009	爪の障害	6.2
M02024e11014	慢性リウマチ性心疾患	1.2	M02024e14010	腋毛症	10.1
M02024e11015	慢性非リウマチ性心内臓疾患	8.2	M02024e14011	色素異常症	6.6

疾病新分類コード	疾病新分類項目名	推計患者数	疾病新分類コード	疾病新分類項目名	推計患者数
Mb2024e14012	うちのみ及びべんち	45	Mb2024e18018	その他の妊娠及び分娩の障害及び合併症	1.6
Mb2024e14013	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	610	Mb2024e18019	主として産後に関連する合併症及びその他の産科的病態,他に分類されない	0.4
Mb2024e15001	変形性関節症	2238	Mb2024e19001	新生児の障害	3.9
Mb2024e15002	関節リウマチ	839	Mb2024e19002	未熟児の障害	0.0
Mb2024e15003	偏風	83	Mb2024e19003	早産児の障害	1.1
Mb2024e15004	その他の炎症性多発性関節障害	151	Mb2024e19004	出産外傷	0.0
Mb2024e15005	四肢の後天性変形	40	Mb2024e19005	胎児または新生児の敗血症	0.0
Mb2024e15006	膝内障	30	Mb2024e19006	胎児または新生児のその他の感染症	0.5
Mb2024e15007	その他の関節障害	122	Mb2024e19007	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	1.7
Mb2024e15008	脊椎障害(脊椎症を含む)	2511	Mb2024e19008	新生児の低体温症	0.0
Mb2024e15009	椎間板障害	762	Mb2024e19009	分娩期間及び胎児発育に関連する障害	0.0
Mb2024e15010	頸椎症候群	0.0	Mb2024e19010	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	0.8
Mb2024e15011	腰痛症及び坐骨神経痛	0.0	Mb2024e19011	その他の周産期に発生した病態	1.0
Mb2024e15012	その他の背部痛	0.0	Mb2024e20001	二分脊椎<脊椎断裂>	0.2
Mb2024e15013	その他の脊柱障害	272	Mb2024e20002	その他の神経系の先天奇形	1.0
Mb2024e15014	軟部組織障害	515	Mb2024e20003	唇裂及び口蓋裂	0.9
Mb2024e15015	肩の傷害<損傷>	785	Mb2024e20004	心臓の先天奇形	2.6
Mb2024e15016	骨粗しょう症	637	Mb2024e20005	その他の循環器系の先天奇形	0.7
Mb2024e15017	その他の骨の密度及び構造の障害	2.9	Mb2024e20006	その他の先天奇形	19.5
Mb2024e15018	骨髄炎	1.4	Mb2024e20007	ダウン症候群(完全な21トリソミー)	1.4
Mb2024e15019	老年性骨軟骨症<骨髄症>	1.8	Mb2024e20008	小腿の先天欠損,閉鎖及び狭窄	0.0
Mb2024e15020	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	5.2	Mb2024e20009	その他の消化器系の先天奇形	0.8
Mb2024e16001	その他の女性骨盤臓器の炎症性疾患	0.3	Mb2024e20010	その他の腎尿路系臓器系の先天奇形	0.6
Mb2024e16002	卵管炎及び卵巣炎	0.1	Mb2024e20011	接骨筋部の先天変形	0.8
Mb2024e16003	子宮内膜症	5.9	Mb2024e20012	足の先天変形	0.6
Mb2024e16004	その他の女性骨盤臓器の炎症性疾患	2.2	Mb2024e20013	脊柱及び骨性胸部の先天奇形	0.0
Mb2024e16005	卵巣,卵管及び子宮広間線の非炎症性障害	0.2	Mb2024e20014	その他の筋骨格系の先天奇形及び変形	0.7
Mb2024e16006	月経障害	14.8	Mb2024e20015	停當精巣<睾丸>	0.2
Mb2024e16007	閉経期及びその他の閉経期初期障害	24.6	Mb2024e20016	染色体異常,他に分類されないもの	1.0
Mb2024e16008	女性不妊症	19.8	Mb2024e21001	眼瞼及び眼窩の損傷	3.0
Mb2024e16009	その他の女性生殖系の疾患	131	Mb2024e21002	めまい	16.1
Mb2024e16010	前立腺肥大(症)	36.4	Mb2024e21003	不明瞭	2.3
Mb2024e16011	前立腺の炎症およびその他の疾患	2.0	Mb2024e21004	老衰	0.6
Mb2024e16012	水様膜または精原性	0.3	Mb2024e21005	その他の症状,徴候及び異常臨床所見,異常検査所見で他に分類されないもの	147.0
Mb2024e16013	男性不妊症	0.4	Mb2024e22001	頭蓋骨及び顔面骨の骨折	0.0
Mb2024e16014	糸刺包皮,包茎または嵌頓包茎	0.4	Mb2024e22002	頸部,胸部及び骨盤の骨折(脊椎を含む)	0.0
Mb2024e16015	乳房の障害	10.5	Mb2024e22003	大腿骨の骨折	0.3
Mb2024e16016	急性及び急速進行性腎炎症候群	0.7	Mb2024e22004	その他の四肢の骨折	0.8
Mb2024e16017	ネフローゼ症候群	4.5	Mb2024e22005	明示された部位及び多部位の脱臼,脱臼及びストレッチ	45.2
Mb2024e16018	その他の糸球体疾患	1.1	Mb2024e22006	眼球及び眼窩の損傷	17.3
Mb2024e16019	腎尿管管閉塞性疾患	10.1	Mb2024e22007	頭蓋内損傷	0.0
Mb2024e16020	急性腎不全	1.9	Mb2024e22008	その他の内臓の損傷	0.0
Mb2024e16021	慢性腎不全	147.8	Mb2024e22009	明示された部位及び多部位の挫傷損傷及び外傷性切断	22.3
Mb2024e16022	その他の腎不全	0.8	Mb2024e22010	その他の明示された部位,部位不明及び多部位の損傷	0.0
Mb2024e16023	尿路結石症	9.6	Mb2024e22011	自然開口部からの異物侵入の作用	3.3
Mb2024e16024	膀胱炎	11.0	Mb2024e22012	酔傷及び暴食	0.1
Mb2024e16025	その他の腎尿路系の疾患	82.9	Mb2024e22013	薬物,薬劑及び生物学的製剤による中毒	221.4
Mb2024e16026	女性性器脱	3.9	Mb2024e22014	有害物質の有害な影響または有害物質への曝露.発生源として主に非医薬品	13.9
Mb2024e16027	その他の男性生殖系の疾患	1.8	Mb2024e22015	その他及び詳細不明の外国の作用	0.1
Mb2024e16028	子宮頸部(部)の炎症性疾患	0.4	Mb2024e22016	外傷の早期合併症並びに外科的及び内科的ケアの合併症,他に分類されない	12.2
Mb2024e17000	性的健康に関連する疾患	2.4	Mb2024e22017	損傷,中毒及びその他の外国による影響の続発・後遺症	75.9
Mb2024e18001	自然流産	0.5	Mb2024e22018	多部位の骨折	0.1
Mb2024e18002	医学的人工流産	0.1	Mb2024e23001	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.0
Mb2024e18003	子宮外妊娠	0.3	Mb2024e23002	検査及び診査のための保健サービスの利用者	0.0
Mb2024e18004	妊娠によるその他の不特定の中絶結果	0.7	Mb2024e23003	療育管理	0.0
Mb2024e18005	妊娠高血圧症	0.2	Mb2024e23004	その他の生活に関連する環境下での保健サービスの利用者	0.0
Mb2024e18006	妊娠高血圧腎症及び子癇	0.6	Mb2024e23005	出生地別の新生児数	0.0
Mb2024e18007	妊娠早期の出血(切迫流産を含む)	4.1	Mb2024e23006	分娩前スクリーニング及びその他の妊娠の管理	0.0
Mb2024e18008	前置胎盤,胎盤早期剥離及び分娩前出血	0.3	Mb2024e23007	分娩後のケア及び検査	0.0
Mb2024e18009	分娩時出血	0.0	Mb2024e23008	臓器または組織のドナー	0.0
Mb2024e18010	分娩後出血	0.1	Mb2024e23009	特定の気量(歯の補てつを除く)及び保健ケアのための保健サービスの利用者	0.0
Mb2024e18011	妊娠中の糖尿病	1.4	Mb2024e23010	予防接種	0.0
Mb2024e18012	早産	3.9	Mb2024e23011	広範囲に関連する健康障害をきたす恐れのあるその他の者	0.0
Mb2024e18013	閉塞性分娩	0.1	Mb2024e23012	歯の補てつ	0.0
Mb2024e18014	単胎自然分娩	6.4	Mb2024e23013	腎透析依存	0.0
Mb2024e18015	帝王切開による出産	0.6	Mb2024e23014	その他の理由による保健サービスの利用者	0.1
Mb2024e18016	主として産後に関連する合併症及びその他の産科的病態,他に分類されない	0.9	Mb2024eXXXX	others	2,085.2
Mb2024e18017	その他の胎児及び羊膜腔に関連する母体のケア並びに予想される分娩の諸	4.5		合計	8,325.5

＜別添資料3＞ 標準病名マスターの ICD-11 対応表 (一部例抜粋)

No	ICD 10 章	標準病名	代表・同義	ICD 10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名として現	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	MMS	備考
9745	2	TSH産生下垂体腺腫	L	D352	UHS9	=:2F37.Z	=:2F37.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/125504731	1 <	2F37.Z & XH94U0 (Benign neoplasm of endocrine glands, unspecified & Pituitary adenoma, NOS)(詳細不明の内分泌腺の良性新生物&下垂体腺腫、NOS)。TSH産生は？
9749	2	成長ホルモン産生下垂体腺腫	L	D352	UMP0	=:2F37.Z	=:2F37.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/172628415	1 =	5A60.0 & XH4HE3 (Acromegaly or pituitary gigantism & Somatotroph adenoma)(先端巨大症または下垂体巨人症&成長ホルモン腺腫)
9751	2	ゴナドトロピン産生下垂体腺腫	L	D352	V1NG	=:2F37.Z	=:2F37.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1871539651 & http://id.who.int/icd/entity/54621194	1 =	2F37.Z & XH50K4 & XA8J35 (Benign neoplasm of endocrine glands, unspecified & Gonadotroph adenoma & Pituitary gland)(詳細不明の内分泌腺の良性新生物&性腺刺激ホルモン腺腫&下垂体)
9754	2	良性頭蓋咽頭腫	L	D353	NQTV	下:2F37.Z	下:2F37.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/180789335 & http://id.who.int/icd/entity/339416892	1 =	2F37.Z & XH1AZ2 (Benign neoplasm of endocrine glands, unspecified & Craniopharyngioma)(詳細不明の内分泌腺の良性新生物&頭蓋咽頭腫)
9758	2	松果体良性腫瘍	L	D354	P4V3	=:2F37.Z 下:2A00.20	=:2F37.Z 下:2A00.20		1	=	http://id.who.int/icd/entity/2032677827	1 =	2F37.Z & XA1EU3 (Benign neoplasm of endocrine glands, unspecified & Pineal gland)(詳細不明の内分泌腺の良性新生物&松果体)
9760	2	頸動脈小体良性腫瘍	L	D355	S2BE	=:2F37.Z	=:2F37.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/476315223	1 =	2F37.Z & XA0F61 (Benign neoplasm of endocrine glands, unspecified & Carotid body)(詳細不明の内分泌腺の良性新生物&頸動脈小体)
9764	2	頸動脈小体腫瘍	L	D355	TBR6	=:2F37.Z	=:2F37.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/277219953	1 =	2F9A & XA0F61 (Neoplasms of unknown behaviour of endocrine glands & Carotid body)(内分泌腺の挙動が不明な新生物&頸動脈小体)
9770	2	非クローム親和性傍神経節細胞腫	L	D356	DRA8	=:2F37.Z	=:2F37.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1758375594 & http://id.who.int/icd/entity/863745687	1 =	2F37.Z & XH8GG7 (Benign neoplasm of endocrine glands, unspecified & Nonchromaffin paraganglioma)(詳細不明の内分泌腺の良性新生物&非クローム親和性傍神経節腫)
9771	2	腋窩リンパ管腫	L	D360	GJSD	=:2F3Z	=:2F3Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1947967804	1 =	LA90.12 & XA17J1 (Lymphatic malformations of certain specified sites & Axilla)(特定部位のリンパ系奇形&腋窩)
9772	2	リンパ腺混合腫瘍	L	D360	HV36	=:2F3Z	=:2F3Z		2	=	http://id.who.int/icd/entity/2146193560 & http://id.who.int/icd/entity/1856218901	2 =	2F3Y & XH2KC1 & XA33X2 (Benign non-mesenchymal neoplasms of other specified site & Pleomorphic adenoma & Lymph nodes)(その他の特定部位の良性非間葉系腫瘍&多形腺腫&リンパ節)。基幹コードがわからない。そもそもリンパ腺という腺組織はなくリンパ節の間違いでは？また2F3Zの上位はBenign neoplasms, except of lymphoid, haematopoietic, central nervous system or related tissuesなのにlymph vesselsやlymph nodes関連の項目が含まれているのはなぜか？
9774	2	リンパ節良性腫瘍	L	D360	PU2V	=:2F3Z	=:2F3Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/2146193560	1 =	2F3Y & XA33X2 (Benign non-mesenchymal neoplasms of other specified site & Lymph nodes)(その他の特定部位の良性非間葉系腫瘍&リンパ節)

<別添資料4> WHO-FIC ITC Mid-Year Meeting 議事録 (2024/5/7)

WHO-FIC ITC Mid-Year Meeting on 7th May 2024 – Online Meeting
Unconfirmed Meeting Notes – Summary

DRAFT

Co-chairs: Samson Tu, Vicki Bennett

ITC WHO Liaison: Can Çelik

Secretariat: Takeshi Imai

Attendees:

The personnel listed below attended the ITC meeting and this list was formulated based on the participant catalogue of the zoom meeting.

Samson Tu	Vicki Bennett	Takeshi Imai	Ann-Helene Almborg
Anne Elsworth	Anupama Ginige	Aude Robert	Breanna Harnetty
Brooke Andrew	Brooke Macpherson	Cassandra Linton	Catherine Sykes
Christine Haas	Christopher Chute	Claudia von Zweck	Coen van Gool
Dennis Kruse	Elena Cardillo	Gemma Quayle	Georgia Savvopoulos
Greg Tait	Haejung Lee	Hanne Fjeldstad Johansen	Heuser Friedrich
Jasmine Wang	Jean-Edgard	Jenny Couse	Joanne Valerius
John G O'Connor	Joshua Somerville	Kathy Ginnangelo	Luciana Tanno
Lyn Hanmer	Manuel Yañez	Marie Vikdal	Michael Frost
Michaela Warzecha	Mikko Härkönen	Nicole Rankin	Øystein Hebnes
Pastor Xavier	Paul Harris	Philipp Recht	Qiu
Regine Perry-Mertens	Richard Madden	Saman Gamage	Santiago Andres Frid
Sharon Baker	Silva Z	Sukil Kim	Ulrich Vogel
Vincenzo Della Mea	Yanina Besstrashnova	Yunuén Cuevas	

Date & Time:

Tuesday, May 7, 2024, 13:00-15:00 CEST

Notes:

1. Welcome and approval of 2023 WHO-FIC Annual Meeting minutes

(Vicki Bennett & Samson Tu)

- ITC co-chairs welcomed everyone to the 2024 ITC mid-year meeting.
- The minutes from the 2023 annual meeting was approved with no corrections.

- No revisions or additions to the agenda were needed.

2. WHO update on tools and technological developments (Can Çelik)

- Language Support:
 - ✓ Added Czech, Portuguese, and Uzbek to the previously supported languages (Arabic, Chinese, English, French, Russian, Spanish, and Turkish), totaling 10 languages for WHO-FIC tools.
- ICF Release:
 - ✓ Migrated and updated ICF and ICHI, aligning ICF modeling with ICD standards.
 - ✓ Released ICF 2024 with a browser and coding tool.
- API Enhancements:
 - ✓ Added new language support and ICF access.
 - ✓ Introduced an endpoint for automated coding and enhanced DORIS support.
 - ✓ Pre-release of FHIR supporting ICD API is available for testing.
- Coding Tool Update:
 - ✓ Now supports post-coordination, including unspecified axes.
- Embedded Classification Tools:
 - ✓ Added ICF support, flexible multilingual support, and enhanced post-coordination capabilities.
- DORIS Tool Updates:
 - ✓ Updated web and desktop versions, supporting batch processing and textual certificate coding.
 - ✓ Continuous rule updates through a dedicated task force.
- CodeFusion Tool:
 - ✓ Updated to support ICF and the latest release for automated textual diagnosis coding.
- **[Discussions]:**
 - ✓ ICF Coding Tool (Samson):
 - Inquired about integrating ICF environmental factors as context for body functions and A&P coding.
 - Can: Current tool requires manual addition but can be modified for better integration.
 - ✓ Cluster Coding in ICD-11 (Takeshi):
 - Questioned about selecting the main code with multiple STEM codes.
 - Can: ICD-11 supports post-coordination akin to the ICD-10 asterisk and dagger system. Main condition selection varies by system, with algorithms

needed for automation.

- ✓ Post-Coordination Flexibility (Vicki, Ulrich):
 - Discussed the utility and challenges of flexible post-coordination.
 - Can: Extension codes can now be freely added, balancing guidance and flexibility.
 - Ulrich: Emphasized the benefits for bridging coding exercises, highlighting the need for country-specific use cases and national linearizations.

- **[Conclusion]:**

- ✓ Vicki stressed the importance of developing appropriate filters for country-specific implementations while appreciating the expanded post-coordination capabilities. Further exploration and demonstration of these tools are needed.

3. Foundation content harmonization update and next steps (Samson Tu, Kathy Ginnangelo, and Ann-Helene Almborg)

- **Project Overview: (Samson)**

- ✓ Investigating issues related to WHO-FIC foundation content harmonization.

- **Areas of Work:**

- ✓ Seven areas identified, including conceptualization of harmonized WHO-FIC Foundation, mapping of anatomical entities, case studies, inventory of areas of overlap, use cases for linkage and semantic integration, harmonization methods, and workflow implications.

- **Use Cases and Integration:**

- ✓ Studied cross-classification linkages and semantic integration.
- ✓ Lack of compelling use cases for linkages.

- **Inventory of Areas of Overlap: (Kathy)**

- ✓ Identified over 100 topics for potential harmonization.
- ✓ Categorized and analyzed overlaps, with suggested methods for harmonization.
- ✓ A paper summarizing the work is in preparation.

- **Concrete Example of Harmonization: (Ann-Helene)**

- ✓ Visual impairment classifications in ICD and ICF as a harmonization example.
- ✓ Discussed the need for stakeholder input and prioritization in harmonization efforts.

- **[Discussions]:**

- ✓ Decision-Making for Harmonization:
 - Questions raised about who decides what to harmonize and the involvement of various stakeholders.
 - Importance of considering benefits and cost, ease of harmonization, the

impact on classifications.

- ✓ Stakeholder Involvement:
 - Need for input from CSACs and other committees and reference groups.
 - Joint work suggested for CSAC ICD and CSAC ICF.
- ✓ Future Discussions:
 - Further discussions planned at the FDC and FDRG mid-year meeting joint session in mid-May.
 - Emphasis on governance arrangements for changes that impact multiple reference classifications.

- **[Conclusion]:**

- ✓ The session highlighted significant progress in foundation content harmonization and outlined next steps, including further discussions at upcoming meeting to refine the harmonization process and decision-making frameworks.

4. Mapping (Samson Tu & Takeshi Imai)

- **WHO Mapping Table Validation: (Samson)**

- ✓ Focused on validating mapping tables from ICD-10 to ICD-11.
- ✓ Identified issues with WHO mapping tables through feedback from various groups, including Canadians (CIHI) and the MRG.
- ✓ Issues included non-specific targets, mismatched coding suggestions, and problems with residuals.
- ✓ Validation involved comparing WHO maps with CIHI maps and using independent reviewers for adjudication.

- **Validation Work in Progress:**

- ✓ Ten reviewers formed five teams to review 472 cases each.
- ✓ Review process involved adjudicating between WHO maps with CIHI maps and proposing new targets if necessary.

- **Japan Collaborating Center's Validation: (Takeshi)**

- ✓ Used the Japanese standard disease name master, which includes 50,000 terms with ICD-10 codes.
- ✓ Found only 18% of Japanese disease names matched ICD-11 Foundation translations.
- ✓ Approximately 74% agreement between manual coding and WHO mapping table, with 15% partial matches due to post-coordination and 10% mismatches.
- ✓ Mismatch partially due to five-digit ICD-10 codes in Chapter 13 used in Japan. If this is ignored, the mismatch rate is around 5-10%.

- **Mapping Tool Evaluation: (Samson)**
 - ✓ Aim to automate the generation of candidate maps due to labor-intensive nature of manual mapping.
 - ✓ Preliminary study using four mapping tools showed mixed results.
 - ✓ Funded by Dutch Collaboration Centre to support a programmer's work on this project.
- **Questionnaire Insights:**
 - ✓ Survey responses from 17 countries highlighted various mapping use cases and challenges.
 - ✓ Identified needs for WHO mapping table review, coordination, and tool advice.
- **[Discussions]:**
 - ✓ **Challenges and Improvements:**
 - Recognized ongoing challenges in mapping ICD-10 to ICD-11, particularly in morbidity circumstances.
 - Emphasized the need for continuous evaluation and adjustment of mapping tables.
 - ✓ **Country-Specific Investigations:**
 - Highlighted the importance of country-specific investigations to refine and improve mapping processes.
 - Acknowledged that real-world frequency and application might differ from theoretical mappings.
 - ✓ **Next Steps:**
 - Further discussions at FDC and council levels to address identified challenges and plan future actions.
 - Emphasis on the importance of translation and mapping accuracy for effective use of ICD-11 across countries.

5. Updates on other ITC strategic framework work plan tasks

- **Ontology Linkage: Mondo/ICD Integration (Chris)**
 - ✓ Significant progress made in integrating Mondo with ICD, facilitated by the Monarch team and WHO.
 - ✓ Discussions on governance processes for content insertion into the Foundation.
 - ✓ Established a Slack channel for coordination and hired an FTE to support the process.
 - ✓ Ensured alignment between Monarch's tools and ICAT renderings.

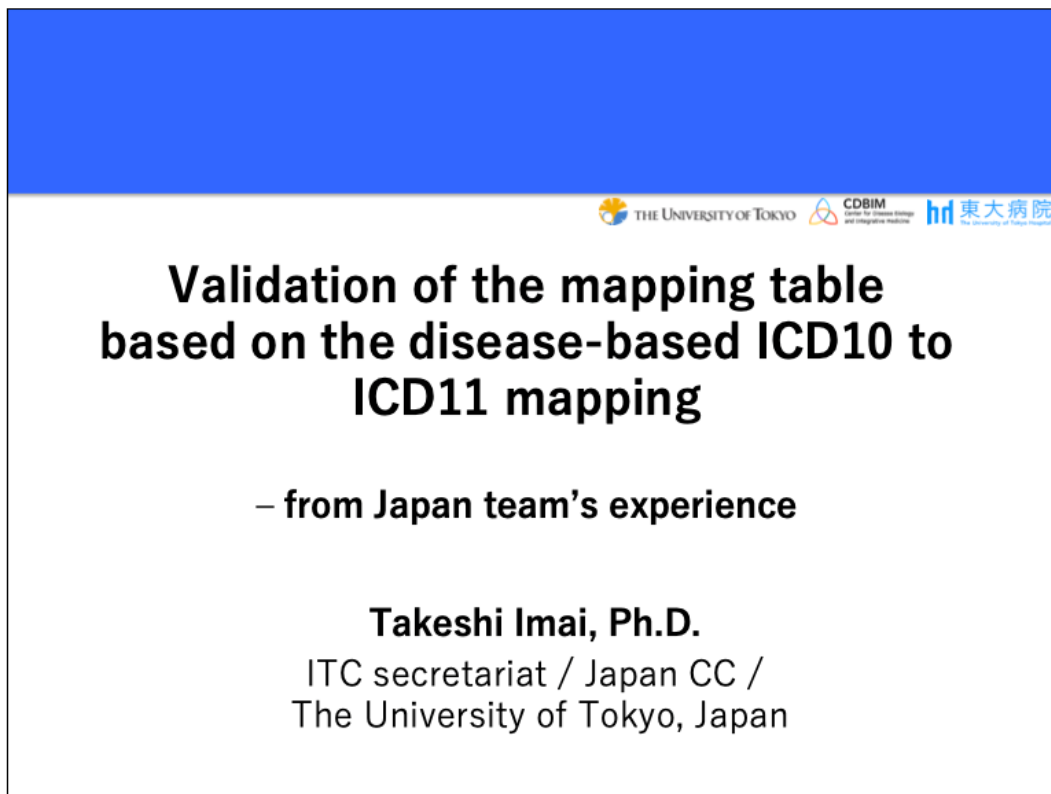
- **Query and Use of ICD-11 Coded Data (Vicki)**
 - ✓ Highlighted the challenge of analyzing new code strings and producing similar outputs as before.
 - ✓ Discussed Kuwait's use of ICD-11 for clinical capture but not for statistical reporting.
 - ✓ Suggested using ICD-Fit data to develop tools for analyzing ICD-11 structured data.
 - ✓ Emphasized the need for methodologies and tools to support structured analytics.
- **International Patient Summary (Takeshi)**
 - ✓ Reported on mapping SNOMED GPS/IPS to ICD-11.
 - ✓ Low mapping rates found using string matching; 38% for disorders.
 - ✓ Suggested the need for post-coordination and more powerful automated tools.
 - ✓ Discussed the complexity of mapping SNOMED terms to ICD-11 and the need for tool support.
- **[Discussions]:**
 - ✓ Ontology Linkage:
 - Positive reception to progress and ongoing efforts.
 - Recognition of the challenges and need for continued coordination.
- **ICD-11 Data Query and Use:**
 - Importance of distinguishing between data analysis and ITC's role.
 - Need for tools to handle ICD-11 code strings and support for structured analytics.
 - Potential role of MRG and MbRG in addressing these issues.
- **International Patient Summary (IPS):**
 - Discussion on the use of Code Fusion tool for automated coding.
 - Differentiation between coding tool use in EMRs and batch processing with CodeFusion.
 - Emphasis on the use case determining the appropriate tool for implementation.
 - Emphasized the importance of the IPS and its role as a standing agenda item due to increasing adoption by countries.
- **[Conclusion]:**
 - ✓ Continued efforts are needed to support the integration and use of ICD-11 data.
 - ✓ Coordination among various stakeholders and committees is essential to address challenges and improve tools.
 - ✓ Further discussions and planning are required to optimize the implementation and use of ICD-11 and related tools.

6. ITC Tasks in the WHO-FIC Strategic Framework and Work Plan, and Country/Personal Experiences

- Vicki encouraged participants to share country experiences related to ITC's work program.
- Mentioned the importance of these meetings for sharing updates and learning from each other.
- Vicki shared insights from a recent coding workforce summit in Australia and highlighted that AI and generative AI in automated coding were hot topics.

Meeting is adjourned at 15:00 CEST.

<別添資料 5 > 発表資料 1 (2024 ITC Mid-Year Meeting)

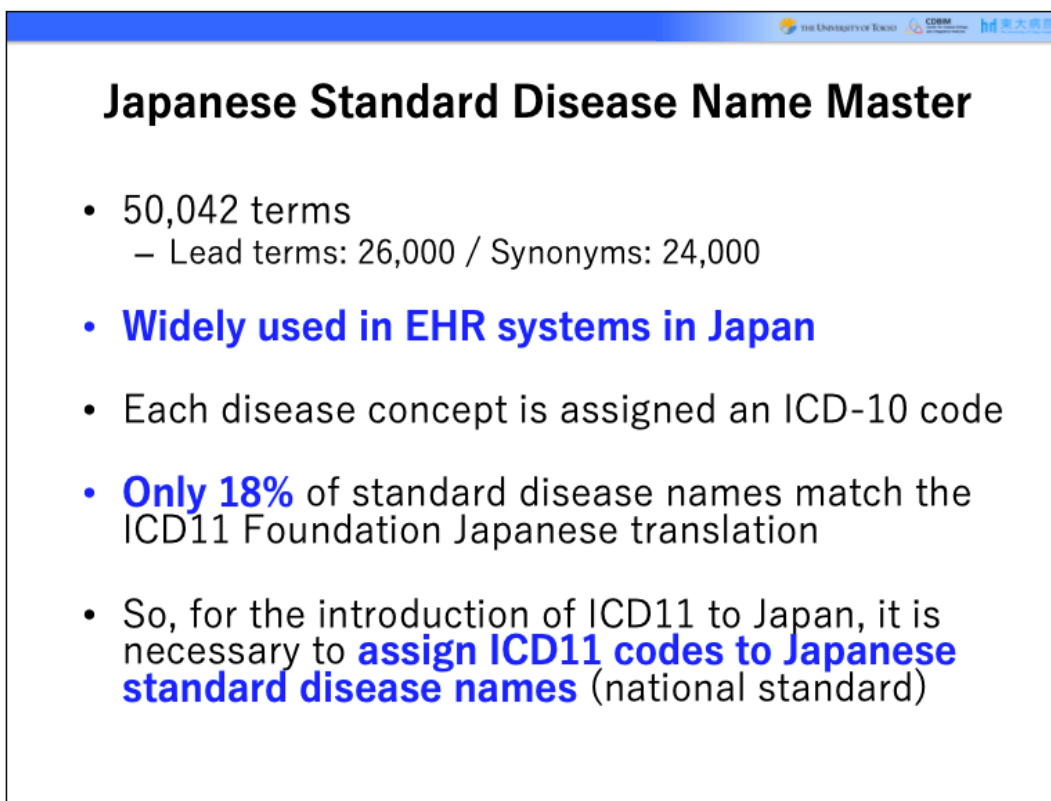


THE UNIVERSITY OF TOKYO CDBIM Center for Disease Bridge and Integrative Medicine hri 東大病院 The University of Tokyo Hospital

Validation of the mapping table based on the disease-based ICD10 to ICD11 mapping

– from Japan team’s experience

Takeshi Imai, Ph.D.
ITC secretariat / Japan CC /
The University of Tokyo, Japan



THE UNIVERSITY OF TOKYO CDBIM Center for Disease Bridge and Integrative Medicine hri 東大病院 The University of Tokyo Hospital

Japanese Standard Disease Name Master

- 50,042 terms
 - Lead terms: 26,000 / Synonyms: 24,000
- **Widely used in EHR systems in Japan**
- Each disease concept is assigned an ICD-10 code
- **Only 18%** of standard disease names match the ICD11 Foundation Japanese translation
- So, for the introduction of ICD11 to Japan, it is necessary to **assign ICD11 codes to Japanese standard disease names** (national standard)

Method

- ICD-11 codes were assigned to each standard disease name at both MMS and foundation levels using post-coordination if necessary.
- Each standard disease name is already assigned an ICD-10 code; with ICD11 coding, the correspondence between ICD-10 and ICD-11 codes can be found on a disease name basis.
- By aggregating the results, mapping information from ICD-10 to ICD-11 categories can be obtained, based on disease-level analysis.

Mapping results

Diseases		ICD10	Mapping info.	Foundation	MMS			
No.	ICD 10 標準病名	代表・コード	交換コード マッピング情報(注)	マッピング情報2022	ICD11 Foundation URI	MMS	備考	
9745	2 TSH産生下垂体腫瘍	L D352	UHS9	==2F37.Z	==2F37.Z	1 = http://id.who.int/icd/entity/125504731	1 < 2F37.Z & XH94U0	(Benign neoplasm of endocrine glands, unspecified & Pituitary adenoma, NOS)(詳細不明の内分泌腺の良性新生物&下垂体腫瘍、NOS)、TSH産生は？
9749	2 成長ホルモン産生下垂体腫瘍	L D352	UMPO	==2F37.Z	==2F37.Z	1 = http://id.who.int/icd/entity/172628415	1 = SA60.O & XH4HE3	(Acromegaly or pituitary gigantism & Somatotroph adenoma)(先端巨大症または下垂体巨人症&成長ホルモン腫瘍)
9751	2 ギナドトロピン産生下垂体腫瘍	L D352	V1NG	==2F37.Z	==2F37.Z	1 = http://id.who.int/icd/entity/1871539651 & http://id.who.int/icd/entity/54621194	1 = 2F37.Z & XH5OK4 & XA8J35	(Benign neoplasm of endocrine glands, unspecified & Gonadotroph adenoma & Pituitary gland)(詳細不明の内分泌腺の良性新生物&性腺刺激ホルモン腫瘍&下垂体)
9754	2 良性膵膵腺腫瘍	L D353	NIQV	下:2F37.Z	下:2F37.Z	1 = http://id.who.int/icd/entity/180789335 & http://id.who.int/icd/entity/339416892	1 = 2F37.Z & XH1AZ2	(Benign neoplasm of endocrine glands, unspecified & Craniopharyngioma)(詳細不明の内分泌腺の良性新生物&頭蓋咽頭腫)
9758	2 松果体良性腫瘍	L D354	P4V3	==2F37.Z] 下:XA00.20	==2F37.Z] 下:XA00.20	1 = http://id.who.int/icd/entity/2032677827	1 = 2F37.Z & XA1EU3	(Benign neoplasm of endocrine glands, unspecified & Pineal gland)(詳細不明の内分泌腺の良性新生物&松果体)
9760	2 顆動脈小体良性腫瘍	L D355	S2BE	==2F37.Z	==2F37.Z	1 = http://id.who.int/icd/entity/476315223	1 = 2F37.Z & XA0F61	(Benign neoplasm of endocrine glands, unspecified & Carotid body)(詳細不明の内分泌腺の良性新生物&顆動脈小体)
9764	2 顆動脈小体腫瘍	L D355	T8A6	==2F37.Z	==2F37.Z	1 = http://id.who.int/icd/entity/277215953	1 = 2F9A & XA0F61	(Neoplasms of unknown behaviour of endocrine glands & Carotid body)(内分泌腺の挙動が不明な新生物&顆動脈小体)
9770	2 非クローム親和性傍神経節腫瘍	L D356	D8A8	==2F37.Z	==2F37.Z	1 = http://id.who.int/icd/entity/1758375594 & http://id.who.int/icd/entity/363745687	1 = 2F37.Z & XH8GG7	(Benign neoplasm of endocrine glands, unspecified & Nonchromaffin paraganglioma)(詳細不明の内分泌腺の良性新生物&非クローム親和性傍神経節腫)
9771	2 腋窩リンパ管腫	L D360	G1S0	==2F3Z	==2F3Z	1 = http://id.who.int/icd/entity/1347967804	1 = LA90.12 & XA17J1	(Lymphatic malformations of certain specified sites & Axiata)(特定部位のリンパ管奇形&腋窩)
9772	2 リンパ管混合腫瘍	L D360	HV36	==2F3Z	==2F3Z	2 = http://id.who.int/icd/entity/2146193560 & http://id.who.int/icd/entity/1856218901	2 = 2F3Y & XH2K1 & XA33X2	(Benign non-mesenchymal neoplasms of other specified site & Pleomorphic adenoma & Lymph nodes)(その他の特定部位の良性非間葉系腫瘍&多形腺腫&リンパ管)。基幹コードがわからない。そもそもリンパ管という腫瘍組織はなくリンパ管の間隙内では？また2F3Zの上位はBenign neoplasms, except of lymphoid, haematopoietic, central nervous system or related tissuesの(Lymph vessels?lymph nodes関連の項目が含まれているのはなぜか？)
9774	2 リンパ管良性腫瘍	L D360	PUZV	==2F3Z	==2F3Z	1 = http://id.who.int/icd/entity/2146193560	1 = 2F3Y & XA33X2	(Benign non-mesenchymal neoplasms of other specified site & Lymph nodes)(その他の特定部位の良性非間葉系腫瘍&リンパ管)

ICD10 chap.	# of Diseases	Comparison of Mapping table and MMS coding results.		
		Match / Partial match		Mismatch
		Perfect	STEM only	
1	3,276	2,811	443	22
2	6,276	4,547	1,680	49
3	1,233	1,172	22	39
4	3,092	2,670	386	36
5	1,596	1,491	85	20
6	2,238	2,039	98	101
7	1,877	1,749	122	6
8	498	428	57	13
9	2,218	1,853	328	37
10	1,215	1,094	90	31
11	2,462	2,242	157	63
12	1,685	1,374	189	122
13	3,853	806	176	2,871
14	1,637	1,535	88	14
15	917	835	82	0
16	637	535	93	9
17	3,412	3,268	99	45
18	1,928	1,523	296	109
19	6,922	2,963	2,722	1,237
Total	46,972	34,935	7,213	4,824
		74.4%	15.4%	10.3%

Matching results

Perfect Match: 74%

Partial Match (STEM): 15%

Mismatch rate:
10%
5% (ignoring 5digit code)

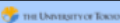


[Note]:

- Based on # of diseases
- Not on RWD frequency

Examples

- Dermoid cyst**
“類皮のう胞”
 - ICD10: D369
 - ICD11 by mapping table: **2F5Z**
 - Manual coding: **LC40**
 - (under Chap20: “Developmental anomalies”)

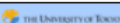


- Growth Hormone-Secreting Pituitary Adenoma**
“成長ホルモン産生下垂体腺腫”
 - ICD10: D352
 - ICD11 by mapping table: **2F37.Z**
 - Manual coding: **5A60.0 & XH4HE3**
 - (Somatotroph adenoma & Acromegaly or pituitary gigantism)

Top frequencies where Manual coding and mapping table results differed

<ul style="list-style-type: none"> • 64 5C56.02 5C56.0Y • 52 3B15 3B14.Z • 40 8B4Z 8B43.Y • 38 CA0H.Z CA0H.Y • 38 5C52.0Z 5C52.00 • 36 5C52.0Z 5C52.01 • 33 MA19.Z MA19.Y • 33 CA0Z CA0Y • 32 9B78.3Z 9B78.3Y • 27 2C77.Z 2C77 • 26 DC34 DC35.Z • 26 CB40 CB40.Y • 26 GB0Z GB0Y • 24 3A10.Z 3A10.Y • 24 DC1Z DC10.Y • 23 FA30.Z FA30.Y • 23 FA30.Z FA30.Y&XA6NZ0 • 22 9A70.Z 9A70.Y • 22 8A8Z MB4D • 22 CA03.Z CA03.Y • 21 8A2Z 8E4Y 	<ul style="list-style-type: none"> • 20 FA30.Z FA30.Y&XA06X8 • 20 EE60.1 EE60.Y • 20 FA30.Z FA30.Y&XA8DJ6 • 20 8A61.Z 8A68.3 • 20 FA30.Z FA30.Y&XA0Y38 • 20 DD50.1 DD50.20 • 19 6E8Z 6B6Z • 19 DA63.Z DA63.Y • 18 NA0A NA0Z • 18 9B78.1Z 9B78.1Y • 18 5A0Z 5A0Y • 18 DC1Z DD94 • 18 GC04.1Z GC04.1Y • 18 AB5Z AB52 • 18 LD2Z LD2F.1Y • 18 6A21.Z 6A21 • 18 8B91.Z 8B91.Y • 18 1F28.Z 1F28.Y • 18 5B71 5B7Z • 18 1C4Z 1C1H.Y • 17 2A83.0 2F7Y&XH1NV1
---	---

(Freq. & Mapping table & Manual coding)

List of “possible target categories of ICD11”

- We can summarize these results and provide a list of possible ICD-11 categories corresponding to each ICD-10 category.
- Perhaps it may be helpful for countries to develop ICD-10 to 11 mapping at a more detailed level.

<別添資料 6 > 発表資料 2 (2024 ITC Mid-Year Meeting)

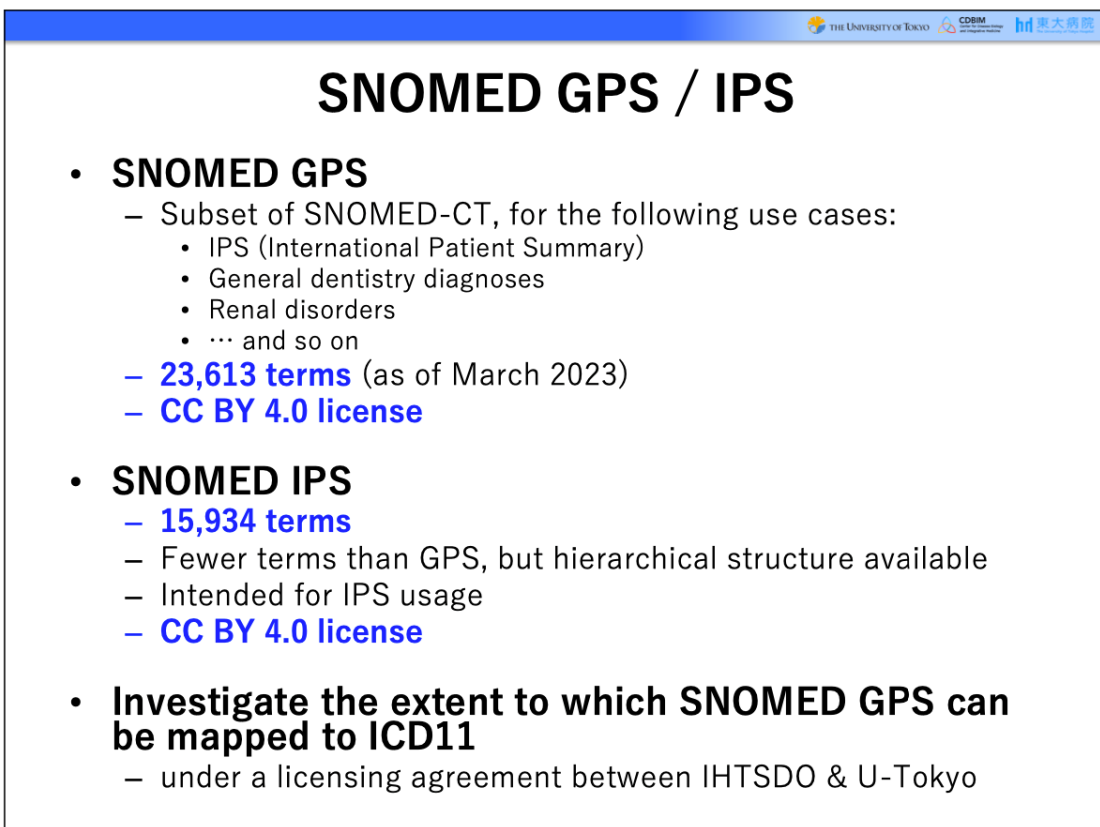


THE UNIVERSITY OF TOKYO CDBIM Center for Clinical Etiology and Integrative Medicine hri 東大病院 The University of Tokyo Hospital

Mapping SNOMED-GPS/IPS to ICD11

– from Japan team’s experience

Takeshi Imai, Ph.D.
ITC secretariat / mapping TF / Japan CC /
The University of Tokyo, Japan



THE UNIVERSITY OF TOKYO CDBIM Center for Clinical Etiology and Integrative Medicine hri 東大病院 The University of Tokyo Hospital

SNOMED GPS / IPS

- **SNOMED GPS**
 - Subset of SNOMED-CT, for the following use cases:
 - IPS (International Patient Summary)
 - General dentistry diagnoses
 - Renal disorders
 - … and so on
 - **23,613 terms** (as of March 2023)
 - **CC BY 4.0 license**
- **SNOMED IPS**
 - **15,934 terms**
 - Fewer terms than GPS, but hierarchical structure available
 - Intended for IPS usage
 - **CC BY 4.0 license**
- **Investigate the extent to which SNOMED GPS can be mapped to ICD11**
 - under a licensing agreement between IHTSDO & U-Tokyo

SNOMED GPS to ICD11

- Overall, **18% (4,188 / 23,613)** of GPS entities could be mapped to ICD11 entities.
 - by English string matching after preprocessing

Main results by SNOMED-CT categories

[disorder] 2,649 / 7,062 (38%)	[body structure] 481 / 1,641 (29%)
[finding] 444 / 5,202 (23%)	[organism] 224 / 1,390 (16%)
[morphologic abnormality] 92 / 226 (41%)	[substance] 147 / 909 (16%)

Observations

- The rate of mapping was very low, even for '*disorders*'.
- Needs mapping using post-coordination**, not just string matching
 - Same as our experience in ICD11 coding of 'Japanese Standard Disease Names'
 - (e.g.) "**Closed fracture distal tibia**" (SNOMED-GPS)
 - Not directly mapped to ICD11 entity.
 - Can be expressed as: "**NC92.3 & XJ44E**"
- Mapping SNOMED-GPS/IPS to ICD11 requires additional effort and tool support
 - In some cases, ICD-11 coding tool works well with flexible search.
 - More 'powerful' automated post-coordination generation is indispensable